

展葉5枚時に花穂だけにジベレリン5ppmを散布すると、房づくり前に花穂が伸び、蕾や果粒の着粒密度が低下する。そのため、摘粒作業の省力化が期待できる。

蓄圧式スプレーやハンドスプレーなどで散布

展葉5枚時

花穂中心に散布し、
新梢には飛散しないようにする

**動噴やSSでの散布は絶対
しない！**

作業軽減のため、摘房する花穂
には散布しない

房づくり時

(散布3週間後の様子)

慣行に比べ第1回目ジベ処理後
の花穂の伸びがやや劣るため、

**房づくりは、慣行と同じか
1割程度長めにする**

ただし、長くし過ぎると摘粒労力
がかかり、省力効果が低下する

摘粒時

(散布6週間後の様子)

注意

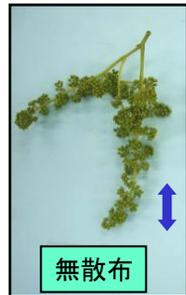
全面散布により、翌年
不発芽となった状況



花穂へジベレリン5ppmを散布
(錠剤1錠を5リットルの水に溶かす)



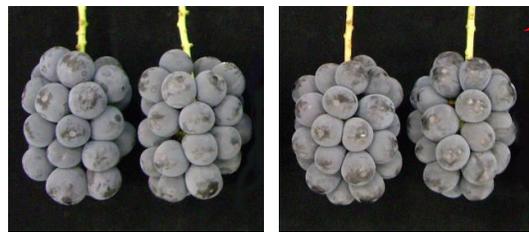
房づくり前に
無散布の1.2~1.4倍に
花穂が伸長する。



ジベレリンの散布
により着粒密度が減少
**摘粒作業の時間が
約15%削減できる。**



十分な商品性を
有した果実が
生産できる



収穫時の様子

注意事項

- ・動噴やSSなどで新梢全体に散布すると、翌年に不発芽などの障害が発生するため、散布は蓄圧式スプレー等を用い、新梢に飛散しないよう花穂中心に行う。
- ・散布後の天候や樹勢などにより、花穂の伸びに差がある。
- ・花穂が伸びすぎると、園によっては果房の位置が低くなり、SSが走行しにくくなる場合がある。
- ・初期の果粒肥大が良くなる傾向があるため、摘粒が遅れると摘粒労力の削減効果が少なくなる。
- ・実施は露地の種なし栽培に限る。なお、施設では花穂が伸びすぎる場合があるため使用しない。
- ・初めて処理する場合は、試験的導入やJA・普及センターなど指導機関へ相談する。